

厚生労働行政推進調査事業費補助金  
(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))  
分担研究報告書

神経難病患者に関するレスパイト入院の全国調査報告および  
レスパイトケアマニュアルの作成

研究分担者：菊池仁志(村上華林堂病院 神経内科)  
研究協力者：成田有吾(三重大学医学部看護学科基礎看護学講座)  
北野晃祐(村上華林堂病院 リハ科)、深川知栄、坪山由香(同 看護部)  
原田幸子(同 MSW)、阿部真貴子(三重大学大学院医学系研究科認知症医療学講座)  
中井三智子(鈴鹿医療科学大学看護学部)、大達清美(松阪中央総合病院 神経内科)

研究要旨

平成 26 年度より施行している神経難病患者のレスパイト入院に関する全国調査の追加調査として、レスパイト入院を行っている施設の看護部長、MSWにそれぞれアンケート調査施行。レスパイト入院中はリハビリや胃瘻交換などの医療処置が施されていた。また、特にレスパイトケアを積極的に行っている施設では難病認定看護師数も多く、看護体制よりむしろ看護スタッフの取り組みが重要であると考えられる。これまでの調査結果をもとにして今後は、各現場でのスタッフの取り組みの充実を図るためのレスパイトケアマニュアルの作成を進めていく。

A. 研究目的

神経難病患者の在宅療養を長期的に支えていくために、レスパイトケアを積極的に行っている施設の実態調査を行い、レスパイトケアのためのマニュアルを作成する。

B. 研究方法

神経難病患者に関するレスパイト入院の追加調査。平成 27 年度西澤班での神経難病患者のレスパイト入院実態調査(2次調査)の結果を受け、神経学会関連施設のうちレスパイトを行っているとは回答した病院に追加アンケート調査を施行。

1) 二次調査でレスパイト入院受け入れ中と回答した 118 施設の看護部長宛にアンケート送付(平成 28 年 3 月)(添付 1)

2) 二次調査でレスパイト入院施行中と回答した病院名の明らかな 79 施設の地域連携室宛にアンケート送付(平成 28 年 7 月)(添付 2)

レスパイトケアマニュアルの作成

これまでの全国実態調査を参考にレスパイトケアの普及を目指すためにマニュアル作りを進めていく。レスパイトケアだけではなく在宅医療や地域包括ケアも含めた実践的な内容にする。(倫理面への配慮) 個人情報等に関しては、厳重に配慮するための規定を定め、三重大学医学部倫理委員会および村上華林堂病院倫理委員会の審査で承認を受けている。

C. 研究結果

1) 二次調査でレスパイト入院受け入れ可能と回答した 118 施設のうち、32 施設より回答を得た(回答率 27%)。うち、29 施設で主な病棟医は神経内科医、看護配置基準、介護体制などに特徴は見られず。13 施設でリハビリテーション以外の患者サービスあり、患者の病状評価やNST介入、コミュニケーション支援、胃瘻交換、ラジカット点滴治療などが施行されていた。

2) 二次調査でレスパイト入院施行と回答した

79 施設中、50 施設より回答を得た（回答率 63%）。レスパイト入院を年間 31 名以上受け入れている施設 14 施設中 8 施設で 1 - 10 名の難病認定看護師が配置されており、それ以外の施設では 3 施設各 1 名ずつの状況であり、統計的にも有意に配置されていた。その他、MSW の配置数、病床数、夜勤看護師数とレスパイト入院受入数との関係は見られなかった。以上の事より、レスパイト入院の受け入れにはマニュアルなどのソフト面での対応が必要であると考えられる。

レスパイトケアマニュアルの格子案を作成し、執筆協力者へ依頼し、承諾を得た。平成 29 年度内にマニュアル完成予定。

#### D. 考察

レスパイト入院を数多く受け入れている施設は、看護・介護体制などには影響されず、難病認定看護師数が多い事が特徴的。このことは、神経難病診療へのソフト面での対応が重要であると考えられる。つまり、スタッフに対する啓発が望まれ、そのためのレスパイトケアマニュアルの作成は、大変意義のあるものであると考えられる。

#### E. 結論

神経難病患者のレスパイト入院は、受け入れ施設の体制に応じて充実できると考えられる。レスパイト入院に積極的な施設の取り組みを参考にして、実践的なレスパイトケアマニュアル作りを行う。

#### F. 健康危険情報

なし

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

- 1) 菊池仁志 . パーキンソン病の在宅ケアを支える介護サービス Geriatric Medicine(老年医学) Vol 54.No3 p235-238.2016 年
- 2) 菊池仁志 . 在宅療養の現状 . 青木正志 . 神経内科 Clinical Questions & Pearl 「運動ニューロン疾患」中外医学社 . 東京 (印刷中)

##### 2. 学会発表

- 1) 菊池仁志、成田有吾、原田幸子、北野晃祐、深川知栄、阿部真貴子、中井三智子、大達清美 . 神経難病患者レスパイト入院に関する全国調査 (二次調査報告) 第 57 回日本神経学会 2016 年 5 月 20 日 (神戸)
- 2) 大達清美、成田有吾、菊池仁志、阿部真貴子、中井三智子、原田幸子、北野晃祐、深川知栄 . 神経内科レスパイト入院に関する神経難病患者へのアンケート調査 . 第 57 回日本神経学会 2016 年 5 月 20 日 (神戸)
- 3) 北野晃祐、原田幸子、深川知栄、阿部真貴子、中井三智子、大達清美、菊池仁志、成田有吾、神経難病患者に対するリハビリテーション実施状況 ~ 全国アンケート調査から ~、第 57 回日本神経学会学術大会 2016 年 5 月 20 日 (神戸)
- 4) 北野晃祐、原田幸子、深川知栄、阿部真貴子、菊池仁志、成田有吾、神経難病患者におけるレスパイト入院の実態とリハビリテーションの実施状況 ~ 全国規模のアンケート調査から ~、第 51 回日本理学療法士協会学術集会 2016 年 4 月 28 日 (札幌)
- 5) Y Narita, K Odachi, M Abe<sup>1</sup>, M Nakai, Y Harada, K Kitano, C Fukagawa H Kikuchi Patient 's communication stage influences the usage of respite admission for the patients with ALS in Japan. ALS IN JAPAN . ALS/MND シンポジウム, IN JAPAN . 2016 年 12 月 7-9 日, Dublin (Ireland)

#### H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定含む)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案登録

なし

##### 3. その他

なし

添付1 看護部長宛のアンケート調査

病院看護体制等 調査票 (看護部長さま等を対象に伺います)

# 1 レスパイトを受け容れておられる病棟の看護体制は？

病床数 ( ) 床

夜勤勤務 看護師数 ( ) 名/当該病棟

交代性 (どちらかに を) ・二交代, ・三交代

看護体制 ・7対1 ・10対1 ・13対1 ・15対1 ・20対1(療養病棟) ・  
25対1(療養病棟)

看護助手数 ( ) 名/当該病棟 介護福祉士数 ( ) 名/当該病棟

ヘルパー数 ( ) 名/当該病棟

# 2 当該病棟での主な診療担当医師のご専門は(該当するものに を, 複数選択可)

・内科系医師 ・外科系医師 ・神経内科医 ・呼吸器科医

# 3 貴院の全 MSW 数は？

全体で ( ) 名 そのうち, 難病に対応している MSW は? ( ) 名

# 4 リハ施設基準は? (複数回答可, 該当するものに を)

脳血管等 , 脳血管等 , 脳血管等 , 障害者(児)

運動器 , 運動器 , 運動器 , 難病患者

呼吸器 , 呼吸器 , 呼吸器 ,

心大血管 , 心大血管 , 心大血管

# 5 リハビリテーション以外にレスパイト中の患者への医療サービスはありますか? ・ある

・ない

「ある」場合, 具体的には [ ]

# 6 余白あるいは裏面に, どうぞご自由にご意見, ご質問等を記載して下さい.



レスパイト入院に関する全国調査2次調査でレスパイト入院施を施行している施設を再調査

看護部長宛

118施設中、32施設より回答（回答率27%）

- 主な病棟医は神経内科医、
- 看護配置基準、介護体制などに特徴は見られず
- レスパイト中は、リハビリ以外に、患者の病状評価やNST介入、コミュニケーション支援、胃瘻交換、ラジカット点滴治療などが施行されていた。

地域連携室宛

79施設中、50施設より回答（回答率 63%）

- レスパイト入院を年間31名以上受け入れている施設14施設中8施設で1-10名の難病認定看護師が統計的にも有意に配置されていた。
- その他、MSWの配置数、病床数、夜勤看護師数とレスパイト入院受入数との関係は見られなかった。

レスパイト入院数は、難病認定看護師数のみと相関しており、受け入れ期間の看護体制というより、施設の難病に対する取り組みに寄与すると考えられた。  
⇒レスパイト入院の普及には、レスパイトケアマニュアルの必要性が認識された。

レスパイトケアマニュアルの作成